

平成20年8月22日
第74回 市町村セミナー

【行政説明Ⅳ】

新型インフルエンザ対策における リスクコミュニケーションについて

厚生労働省健康局結核感染症課

新型インフルエンザ対策推進室

石川晴巳

SARSを振り返る ①

「初報放置」に対する批判

第一報

大阪市内の開業医が
関西空港検疫所へ連絡したが
迅速な対応がなされなかった

検疫所からの厚労省へ連絡に対しても
対応がやや遅れた

SARSを振り返る ②

「台湾人医師の足どりと接触状況」の公表

公表内容

交通機関名・駅名・宿泊所名・部屋番号
飲食店名・店舗名

※感染者との濃厚接触の可能性を明示

高い ○

低い △

保健所に相談 ▲

SARSを振り返る ③

過剰な反応？

**感染者の宿泊したホテルに4日後
つくば市議10人が宿泊(別フロア)。
症状はなく、調査対象にも該当しないが
市議会臨時会に自主欠席。**

**某大学が中国人留学生の女性を
学内施設で事実上隔離。
流行が起きている地域以外の出身で
空港の検疫でも異常なしだった。**

SARSを振り返る ④

安全宣言

京都府・兵庫県
徳島県・香川県
大阪府・厚労省がそれぞれ
「安全宣言」を

接触者調査の結果を踏まえ
潜伏期間とされた10日が経過後に

SARSを振り返る ⑤

風評被害

香川県・小豆島の例

地元の特産品キャンセル

ホテルのブランド毀損

※男性従業員は安全宣言まで帰宅せず

※外出しにくい女性従業員

リスクコミュニケーションとは？



新型インフルエンザのリスクは？

パンデミックは
いつ・どこで・誰に
どんな病毒性、感染力で
どんな規模で
起こるか解らない



リスク評価がむずかしい
つまり
情報提供がむずかしい

新型インフルに関する情報提供の特徴①

対象の広さ

情報の提供先は
子供から高齢者までの
全住民



さまざまな
理解力や感受性を
前提にした情報提供を



情報弱者の
存在も忘れては
ならないこと

広くい情報伝達網
多彩な媒体(広報誌・放送など)

ターゲットを明確にした
分かりやすくアトラクティブな表現

独居老人や外国人への
細かな情報提供ルート

新型インフルに関する情報提供の特徴②

必要な配慮

感染した人への
偏見や差別的な反応が
出る可能性



感染者を出した
企業などへの
風評被害の可能性



風評被害に
巻き込まれたくない
企業などの反応

誰もが感染するかもしれない
誰もが感染させるかもしれない
という平等な可能性の強調

感染拡大防止のために
行政が公表する予定の
情報ガイドラインを事前発表

感染拡大防止のために
行政が公表する予定の
情報ガイドラインを事前発表

新型インフルに関する情報提供の特徴③

事前準備の必要性

新型ウイルス発生から
パンデミックまでの
フェーズの進展



状況に応じて
実施対策が
異なること



対策の違いに応じて
個人の対応にも
違いが出ること

表現フォーマットのひな型や
コンテンツの事前準備を

対策の意味・位置づけを
明瞭に表現

誤解の余地のない
コンパクトなメッセージを

情報提供のポイント①

「自分のこと」

規模が大きいと
リアルな想像の範囲を
超えてしまい
実感が湧きづらい



自分のこととして
受け止めにくい

罹患率25%
最大死亡者64万人



4人に1人がかかってしまう
平成19年度の日本の
総死亡者数・約111万人
の半分強に当たる

他人事

から

自分のこと



情報提供のポイント② 「家族のこと」

自分が感染するか
どうかしか
考えない傾向

自分が治るか
どうかしか
考えない傾向

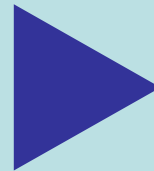
家族や仲間のこととして
受け止めてもらう

公衆衛生的対策への理解
ワクチン・抗ウイルス薬使用法への理解

情報提供のポイント③

「社会のこと」

感染者の
自由な行動



感染拡大の
原因

個人の利害を超えて
社会の利害を考える
みんなの共同責任

公衆衛生的対策のための基盤

インフルエンサーへの情報発信

